

語り継ぐ“濁流の子”アーカイブスについて

石 坂 憲 司 （信州大学附属図書館）

信州大学附属図書館は、平成27年4月28日(火)、昭和36年に発生した長野県伊那谷地域の三六災害(土砂災害・河川氾濫)の資料を電子化した「語り継ぐ“濁流の子”アーカイブス」を公開した。本アーカイブスは、伊那谷の災害教訓を後世に伝え、ソフト面での防災と地域への貢献を行っていくため、長野県内の3機関が役割分担し、協同により立ち上げたものである。本稿では、本アーカイブス公開に至った経緯、概略を紹介する。

1. 公開に至った経緯

平成25年10月、国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所が事務局である「人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト選定委員会」により、「語り継ぐ“濁流の子”プロジェクト」を立ち上げた(参照：<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/think/heritage/index.html>)。

本選定委員会の委員長は、笹本正治前附属図書館長が行っており、主導的な役割を果たした。本学附属図書館は、機関リポジトリ、遺跡資料リポジトリといったアーカイブスの構築について、全国有数の実績があり、その知見・技術力が、当プロジェクトが目指すアーカイブスの構築に大きく寄与できると判断された。

当プロジェクトでは、「行動計画」を策定し、その中でプロジェクト推進のための役割分担を決め、公開に向け準備を進めた。

1.1 打合せ

本学附属図書館と天竜川上流河川事務所の担当者により、アーカイブスの構築について、打合せを重ねた。平成25年9月10日より、打合せを開始し、平成25年度には6回の打合せを実施した。主な打合せ内容は、データ設計、サーバ運用についてである。高度なシステム的な話題には、本学総合情報センター教員、技術職員も同席した。

1.2 プロジェクト感謝状授与式

県内在住の碓田榮一氏より、本プロジェクトに対し寄付があり、平成26年7月9日、プロジェクト感謝授与式を信州大学にて挙行了した。

1.3 記者会見

その後も、本学附属図書館と天竜川上流河川事務所の担当者の間で打合せを重ね、平成26年度には

5回の打合せを実施した。打合せ内容は、詳細なデータ設計、ユーザインターフェース、システムの運用方法についてである。打合せ内容をもとにした、初期コンテンツの電子化が行われ、またサーバ環境の公開準備も整い、平成27年4月28日、本アーカイブスは公開し、本学にて記者会見を行った。



記者会見の様子

左：天竜川上流河川事務所 中谷所長 中央：信州大学 笹本附属図書館長(当時)
右：天竜川総合学習館かわらんべ 井上館長

2. 濁流の子“アーカイブス”の概略

本アーカイブスは、伊那谷の災害教訓を後世に伝え、語り継いでいくことを目的としている。長野県内の3機関が次の役割分担をし、協同により立ち上げた。

- ①天竜川総合学習館かわらんべ ：オリジナル資料を収集・整理・収蔵
- ②天竜川上流河川事務所 ：収集・整理したオリジナル資料を電子化
- ③信州大学附属図書館 ：電子化資料をアーカイブスとして蓄積・情報発信

当時の小中学生らが被災した当時の思いを綴った作文「濁流の子～伊那谷災害の記録～」から35点、被害状況を示す写真317点、関係書籍1点を初期データとして公開した。

収集資料にはこの他、書籍約100冊、写真約4,000点、新聞記事約200点、映像・音声約40点があり、了承が得られたものから順次公開して行く予定である。

本アーカイブスは、下記サイトより公開している。

<http://lore.shinshu-u.ac.jp/>



語り継ぐ“濁流の子”アーカイブスのトップページ

2.1 トップページ

本アーカイブスの目的、概要はもとより、本アーカイブスの象徴である「濁流の子」の文集を掲示して、すぐに参照できるようにした。また、画面上部のタブからは、「濁流の子」「地図から探す」「資料から探す」といった機能的な探し方を掲示した。

2.2 濁流の子

公開の了解を得た作文について、原文とテキスト版をPDFで閲覧することができる。また、被災された方々を配慮し、著者名については、実名でなくイニシャルとした。

2.3 地図から探す

可視的に地図から探す機能を実装した。閲覧したい地域をクリックすると、その地域に合致した検索結果が表示される。

2.4 資料から探す

アーカイブスの資料は、「写真」「新聞」「図面」「書籍」「体験談」「データ」「グラフ」「映像」「音声」の9タイプに分類した。

たとえば、「写真」をクリックすると、地域別に表示され、特定地域をクリックすると当該地域が表示されるようになっており、PC 内のフォルダの下部階層を順次クリックする感覚で参照できる。



「地図から探す」トップ画面

3. 濁流の子“アーカイブス”の今後

本アーカイブスの公開は、端緒についたところである。収集した資料は、5 カ年で公開可能なものは、全て公開していく予定である。全容が揃った際は、かなり充実したサイトとなるので、期待していただきたい。

今後は、3機関の連携をより活発化することにより、本学附属図書館として、本アーカイブスの発展に一層寄与したいと考えている。